

様式第10（第9条の2関係）

汚濁負荷量測定手法届出書

年 月 日

名古屋市長 様

届出者 郵便番号
住 所

名 称
代表者氏名

連絡責任者職氏名
電 話 ()

水質汚濁防止法第14条第3項の規定により、汚濁負荷量の測定手法について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称		※整理番号	
工場又は事業場の所在地		※受理年月日	年 月 日
△汚濁負荷量の測定手法	別紙のとおり。	※備考	

- 備考
- 1 △印の欄の記載については、別紙によることとし、かつ、できる限り、図面、表等を利用すること。
 - 2 ※印の欄には、記載しないこと。
 - 3 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格A4とすること。

別紙

汚濁負荷量の測定手法

		指定項目の別			
1	特定排出水の区分	計測方法			計測場所
		汚染状態	特定排出水の量	その他の汚濁負荷量の測定に必要な事項	
				別図のとおり	
				別図のとおり	
				別図のとおり	
2	特定排出水の区分	特定排出水の1日当たりの汚濁負荷量の算定方法			
3	参考事項				

備考 汚濁負荷量の測定手法の記載にあたっては、指定項目ごとに作成すること。

別添 ー

その他の汚濁負荷量の測定の必要な事項

					指定項目の別	COD
特定排出水の区分		・特定排水 ・特定排水以外の排水 ・排 出 水				
汚染状態の計測方法	水質自動計測器等の種類 (注2)	選定の根拠	計測回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠	
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日 年 月 日 年 月 日	換算式 (注3)	換算式の根拠			備考
			試料数 $n =$ 期 間 相関係数 $r =$	変動係数 標準偏差	$CV_x =$ $CV_y =$ $\sigma_x =$ $\sigma_y =$	
量の計測方法	流量計等の種類 (注2)	選定の根拠	計測回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠	
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日 年 月 日 年 月 日	※ 換算式 (注3)	※ 換算式の根拠			備考

注 1 特定排出水の区分ごとに記入すること。
 2 形状図、仕様書 (又はカタログ) 等を添付すること。
 3 換算式の算定の基礎となったグラフ、データ等を添付すること。

※ 用水の量を計測することにより、特定排水の量又は特定排水以外の排水の量を計測する場合のみ記入。

別添 ー

その他の汚濁負荷量の測定の必要な事項

		指定項目の別			窒素含有量
特定排出水の区分		・特定排水	・特定排水以外の排水	・排出水	
汚染状態の計測方法	水質自動計測器等の種類 (注2)	選定の根拠	計測回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日	自動計測器の性能基準 (注3)			備考
		ゼロ校正液	標準試料溶液	実試料	
	年 月 日 年 月 日	・計測回数： 回 ・各計測値とその平均値との差の、最大目盛値に対する比率： ~ %	・計測回数： 回 ・計測値の平均値と標準試料溶液濃度との差の標準試料溶液濃度に対する比率 [又は濃度差]： % [mgN/L]	・計測回数： 回 ・計測値の平均値と指定計測法による測定値の平均値との誤差率 (注4) [又は濃度差]： % [mgN/L]	
量の計測方法	流量計等の種類 (注2)	選定の根拠	計測回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日	※ 換算式 (注3)	※ 換算式の根拠		備考
	年 月 日 年 月 日				

- 注 1 特定排出水の区分ごとに記入すること。
- 2 形状図、仕様書 (又はカタログ) 等を添付すること。
- 3 性能基準及び換算式の算定の基礎となったグラフ、データ等を添付すること。
- 4 誤差率は、次式により求めること。

$$\text{誤差率}(\%) = \frac{[\text{自動計測器の計測値の平均値}] - [\text{指定計測法の測定値の平均値}]}{[\text{指定計測法の測定値の平均値}]} \times 100$$

※ 用水の量を計測することにより、特定排水の量又は特定排水以外の排水の量を計測する場合のみ記入。

別添 ー

その他の汚濁負荷量の測定に必要な事項

		指定項目の別			りん含有量
特定排出水の区分		・ 特定排水	・ 特定排水以外の排水	・ 排 出 水	
汚染状態の計測方法	水質自動計測器等の種類（注2）	選定の根拠	計測回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日	自動計測器の性能基準（注3）			備考
		ゼロ校正液	標準試料溶液	実試料	
	年 月 日 年 月 日	・ 計測回数： 回 ・ 各計測値とその平均値との差の、最大目盛値に対する比率： ~ %	・ 計測回数： 回 ・ 計測値の平均値と標準試料溶液濃度との差の標準試料溶液濃度に対する比率 [又は濃度差]： % [mgP/L]	・ 計測回数： 回 ・ 計測値の平均値と指定計測法による測定値の平均値との誤差率（注4） [又は濃度差]： % [mgP/L]	
量の計測方法	流量計等の種類（注2）	選定の根拠	計測回数	知事の定める適用要件	困難であるとする根拠
	工事着手予定年月日 計測開始予定年月日	※ 換算式（注3）		※ 換算式の根拠	備考
	年 月 日 年 月 日				

- 注 1 特定排出水の区分ごとに記入すること。
- 2 形状図、仕様書（又はカタログ）等を添付すること。
- 3 性能基準及び換算式の算定の基礎となったグラフ、データ等を添付すること。
- 4 誤差率は、次式により求めること。
- ※ 用水の量を計測することにより、特定排水の量又は特定排水以外の排水の量を計測する場合のみ記入。

$$\text{誤差率(\%)} = \frac{[\text{自動計測器の計測値の平均値}] - [\text{指定計測法の測定値の平均値}]}{[\text{指定計測法の測定値の平均値}]} \times 100$$

別添

汚濁負荷量及び特定排水等の量の補そく率

計測場所	特定排水等のCOD (mg/L)	特定排水等の量				特定排水等の汚濁負荷量				指定項目の別	COD	備考	
		(m ³ /日)				(kg/日)							
						補そく率(%)							
	●				●	●						●	
	●				●	●						●	
	●				●	●						●	
	●				●	●						●	
	●				●	●						●	
	●				●	●						●	
	●				●	●						●	
	●				●	●						●	
	●				●	●						●	
合計					●	100.0						●	100.0

別添

汚濁負荷量及び特定排水等の量の補そく率

計測場所	特定排水等の窒素含有量 (mg/L)	特定排水等の量						特定排水等の汚濁負荷量						指定項目の別	窒素含有量	
		(m ³ /日)						(kg/日)						補そく率(%)		備考
合計																
								100.0								
														100.0		

別添

汚濁負荷量及び特定排水等の量の補そく率

計測場所	特定排水等のりん含有量 (mg/L)	特定排水等の量			特定排水等の汚濁負荷量			指定項目の別	りん含有量
		(m ³ /日)			(kg/日)			備考	
				補そく率(%)				補そく率(%)	
	●			●			●	●	
	●			●			●	●	
	●			●			●	●	
	●			●			●	●	
	●			●			●	●	
	●			●			●	●	
	●			●			●	●	
	●			●			●	●	
	●			●			●	●	
	●			●			●	●	
合計				●	100.0		●	100.0	